



悔しくて泣く



暗唱にチャレンジする子どもたちが、毎日校長室を訪れます。1回で成功する子もいれば、途中で続きが言えなくなり、翌日に再度チャレンジする子もいます。中には、なかなか成功できずに、悔しくて涙を流す子もいます。私はその様子を見た時、「いい姿だな」と思いました。最近の子どもたちは、ちょっと難しい問題にぶつかると、すぐにあきらめてしまいがちだと言われていますが、「できなくてもまあいいか」などと安易に考えない気持ちが「悔しくて泣く」姿から強く感じられたのです。

失敗を乗り越える力が大切



自ら暗唱にチャレンジし、
努力して成功を収めた
喜びは格別です!

私自身の過去を振り返ってみると、成功体験よりも失敗体験の方が圧倒的に多いと言わざるを得ません。これは、オリンピックなどのスポーツにも言えることだと思いますし、スポーツに限らず、芸術など一般に共通して言えることだと思います。試合やコンクールにおいて優勝すること、1位になることが最終の成功体験だと考えると、たとえ決勝まで残ってもそこで負ければ、これは失敗体験となります。つまり、成功体験を味わうことのできる者は極めて稀であることがわかります。

このことから、自分の夢や希望が思い通りにならないこと・・・、それが当たり前ですし、それが人生なのだと思えます。とすれば、子どもの頃から、負けに

強い人間、失敗に強い人間として育てること、つまり、「子どもから困難を取り除いてやるのではなく、いかにして失敗とつき合い、困難に打ち克つ力をつけてやるか」が大切だと思います。磐梯一小の子どもたちには、なかなか思うようにいかない暗唱へのチャレンジを通して、日々たくましく成長してほしいと願っています!

♥♥♥ 10秒の愛 エピソード ありがとうございます! ♥♥♥

あるお父さんから寄せいただいたエピソードをご紹介します。

毎朝、娘の登校のお手伝いをさせていただいています。

「いってらっしゃい。今日も頑張ってるね。」という娘への気持ちと、

「今日も、娘をよろしくお願ひします。」という先生方や学校への気持ちを込めて。



娘さんを思うお父さんの思いと学校に寄せる思いが心に届きました。

これからも、保護者の皆様からの「一行詩」や「エピソード」をお待ちしています!